

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

最近、憲法改正や皇位継承問題で政治討論のテレビ番組を見る機会が多い。月曜日のTタックルや日曜日のSモーニングなどを見るのだが、以前から気になっていることがある。政治家は自分の主義主張が反論された時、どうしてあれほど冷静でいることが出来るのだろうか。その瞬間は烈火のごとく怒る場面もあるが、1分もたたない内にここにこ顔で話が出来た精神構造が理解出来ないのである。政治家にとって主義主張は命であろう。よほど自分の感情をコントロールする訓練を積んでいるのか、それとも真剣に考えていないかどちらかしかない。この11月25日で三島由紀夫の没後35年になるが、命を賭して国の行く末を憂えた彼ほどの気迫を今の政治の世界に探すことは難しい。

恥ずかしながら私は根っからのテレビっ子である。寝るときもテレビがついていないと寂しい。情報に飢えているわけでは無い。本を読むほうが頭に残ることも理解しているのだが、理屈なしに好きなのだからしょうがない。旅行先での外出時、無意識にホテルのコントローラを手を持ってで家族に笑われるほどである。しかしテレビでストレス解消が出来たらなお安いものだと思わされている。

(小川 修)